「瀬戸内海の生物多様性を体感し守るために
～エコツーリズムの構築と活動を通して～」

広島工業大学大学院　　環境学専攻　　教授　　上嶋英機

要旨

海洋の生物多様性を守ることは大変重要な戦略である。この中、2011年３月に「海洋生物多様性保全戦略」が策定された。自然を身近に感じ自然景観の中に存在する生態系や生物多様性の存在を認識する「生態系景観」を体感し、評価し、そして自然環境を保護していく活動が必要である。それが「エコツーリズム」の概念と一致する。2008年に施行された「エコツーリズム推進法」では、エコツーリズムの定義を、「自然環境保全に配慮しながら、それらを体験し学ぶことで環境保全や地域振興に貢献する活動」としている。

そこで、瀬戸内海全域での海陸一体を対象としたエコツーリズムの普及啓発と具体的な活動を推進するため、一般社団法人「瀬戸内海エコツーリズム協議会」を2010年10月に設立した。エコツーリズムの理念を具現化するため、瀬戸内海に存在する多くの自然環境資源と文化歴史資源を活用したエコツーリズム構築し、地域振興と人材育成を、そして新たな雇用を促進することを目標として、瀬戸内海の関係機関と連携して活動を開始した。

具体的な活動形態として、広島県、廿日市市、呉市、そして「瀬戸内海エコツーリズム協議会」が一体となって「瀬戸内ツーリズム推進協議会」を平成２３年９月に立ち上げた。この協議会の目的は、広島県が掲げる政策「海の道構想」の一環として宮島を初めとする瀬戸内海国立公園の島々と環境資源を活用する海陸一体のツアーの実用化と、廿日市市が推進している宮島の自然資源と歴史文化を活用した新たな観光の創出、更に、呉市が所有する安芸灘諸島の海洋資源と海事文化を活用したエコツアーの構築を図るものである。

一方、環境省は２３年度の新規政策として「生物多様性の保全・活用による元気な地域づくり事業」を掲げた。それらは、「Ａ．エコツーリズムを通じた地域活性化事業、Ｂ．生物多様性の保全と活用による国立公園活性化事業、Ｃ．エコツーリズム基盤施設整備事業」の３本の事業活動からなるエコツーリズムの振興・整備である。

これらの政策の中で「Ａ．エコツーリズムを通じた地域活性化事業」として、①地域コーディネータ活用事業、②外国人旅行者のためのプログラム整備事業、③エコツーリズムガイド育成事業、の３項目から構成されている。これらの事業を、瀬戸内海国立公園の立地している各地方自治体と関係ネットワークと一緒に形成している「協議会」に対し助成して事業展開する方向にある。この事業に前述の「瀬戸内ツーリズム推進協議会」が応募し採用となり、現在実施中である。

先ずは、宮島に訪れる外国人旅行者に満足してもらえる「宮島エコツアーモデル」プログラムを構築すること。そして、エコツーリズムを実施しビジネス化する上で最も重要な人材育成のために、養成の仕組や設備、資格認定などが必要となる。そして、エコツーリズムの実施を支えるために基盤施設整備事業が必要である。以上の課題を達成することを目的として「瀬戸内ツーリズム推進協議会」が活動を行っている。

出展：『国立公園　7月号　通巻695号』　財団法人　国立公園協会
平成23年7月1日発行

瀬戸内海国立公園におけるエコツーリズムの構築

―生態系景観の中に潜む多様な生物を感じよう―

広島工業大学大学院工学系研究科環境学専攻教授　上嶋英機

はじめに

生物多様性条約締約国会議COP10で、生物多様性の保全目標などを定めた「愛知ターゲット」が合意されたが、それを受けて「海洋生物多様性保全戦略」が二〇一一年三月に策定された。海洋の生物多様性を守ることは大変重要な戦略である。自然を身近に感じ、自然景観の中に存在する生態系や生物多様性の存在を認識する「生態系景観」を体感し、評価し、そして自然環境を保護していく活動が必要である。それが「エコツーリズム」の概念と一致する。二〇〇八年に施行された「エコツーリズム推進法」では、自然環境保全に配慮しながら、それらを体験し学ぶことで環境保全や地域振興に貢献する活動と定義している。

そこで、瀬戸内海全体の海陸一体を対象とした、エコツーリズムの普及啓発と具体的な活動を推進するため、一般社団法人「瀬戸内海エコツーリズム協議会」を二〇一〇年一〇月に設立した。エコツーリズムの理念を具現化するため、瀬戸内海に存在する多くの環境資源を活用したエコツアーを構築して、新たな観光としての地域振興と専門家の人材育成を促進していくことを目標に、瀬戸内海の関係機関と連携して活動を開始した。

本誌では、瀬戸内海国立公園を主体としてエコツーリズムを推進するために、これまでに行った海域や陸域での実施活動を通して構築した具体的なエコツアーの実施例を紹介し、それを通して今後推進すべきエコツーリズムの形態やエコツアーのための総合的な基盤整備を考えていきたい。そのために、環境省の二三年度新政策として実施される「生物多様性の保全・活用による元気な地域づくり事業」を、瀬戸内海エコツーリズム構築のためにどのように取り組んでいけるかを考えていきたい。

瀬戸内海の自然環境資源とエコツーリズムの基盤

瀬戸内海エコツーリズムを実施するうえで、生物多様性の保全と活用に役立てることのできる自然環境資源と基盤を設定することが必要である。このため、瀬戸内海の自然景観と生態系を超長期的に残すための概念とその評価手法について研究を行ってきた。概念として掲げた「生態系景観」の定義は、自然景観の中に宿る多様な生物（生態系）の存在を把握することで、言い換えれば「生物が創る景観」であり、その存在を知る「観る目」を育て、自然景観と生態系の健康状態を診断評価することである。そこで、瀬戸内海を陸域と沿岸域と海域の三区分した中で、長期的にモニタリングすべき代表的な「生態系景観」として、陸域は「白砂青松地」、沿岸域は潮間帯の浅場である「干潟や磯浜」、海域は生態系の頂点に立つ海洋哺乳類「スナメリ」を対象に選び、モニタリングのためのネットワークを構築した。白砂青松については瀬戸内海国立公園である室積海岸、虹が浜、有明浜などを「白砂青松ネットワーク」とした。一方、干潟や磯浜については、瀬戸内海国立公園の代表である「宮島」において、沿岸域の浜、崎、浦の三地形を選定し、潮間帯の生態系をモニタリングする体制を構築した。さらに、海域生態系の代表であるスナメリについては、瀬戸内海全

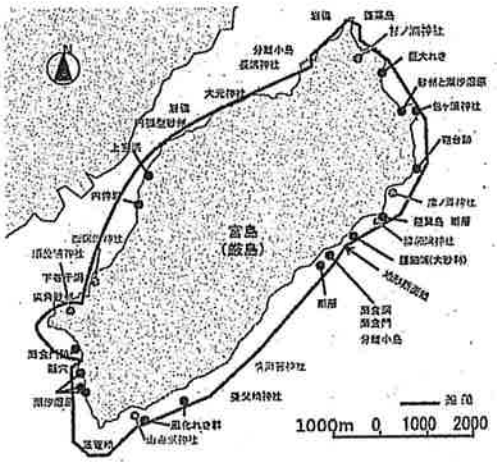
域を航行するカーフェリーから八コースを選び、毎日連続して船上からスナメリの目撃調査をするネットワークを構築した。これらのネットワークを活用してエコツーリズムのプログラムを構成した。

瀬戸内海国立公園及び島嶼部の環境資源を活用したエコツアー

瀬戸内海の環境資源である「生態系景観」を多くの人に体験し、感動して頂くため、「瀬戸内海エコツーリズム」の構築を、環境省や広島県の事業の一環として行ってきた。その結果、瀬戸内海国立公園の宮島を対象としたエコツーリズムとしては、①沿岸域を船で巡る「宮島・海からのエコツアー」と、②陸域の山岳部と沿岸域を徒歩で巡る「宮島・陸域エコツアー」を構築した。また、生態系景観の豊かな島嶼部を船で巡るエコツーリズムとして、③瀬戸内海の安芸灘に存在する呉市管轄の安芸灘諸島の四島を対象とした「安芸灘四島・海からのエコツアー」を構成し試行した。さらに、④瀬戸内海の代表的な海洋哺乳類の「スナメリ」を船上からウォッチする「スナメリ・エコツアー」を構築し試行した。加えて、⑤国立公園の室積海岸や虹ヶ浜、有明浜の「白砂青松ネットワーク」を活用したエコツアーも施行した。これらを通して瀬戸内海エコツーリズムの大きな可能性と成果を得たが、一方で、参加したエコツーリストのアンケート結果からも、多くの課題が確認できた。

1)瀬戸内海国立公園「宮島」におけるエコツアー

瀬戸内海国立公園を代表する宮島は世界文化遺産にも登録され、国際的にも有名であり、国内外から多くの観光客が訪れる。しかし、その観光資源は文化・歴史的な資源が主体となっており、宮島の豊かな自然環境資源を体感するエコツアーは構築されていない。そこで、宮島での海と陸を対象にしたエコツーリズムの構築を行った。先ずは、宮島の自然環境や歴史文化の基礎資源調査を行い、ツアーガイドのための「エコツアーシナリオ」と、陸域と海域を併せた「エコマップ」を作成した。宮島を取り囲む沿岸域の生態系景観を船により海から巡る海域コースを構築し、チャータした地元の観光船(七浦巡りの笹舟)にツアーモニターのツーリスト二〇人を乗せて、沿岸域で干潟や磯場の生態系モニタリング体験を取り入れたプログラムの「宮島・海からのエコツアー」を試行した。一方、宮島の陸域コースとして、弥山や岩船山を巡る「宮島・陸域エコツアー」を構築し、コースに存在する生態系や植生、奇岩巨石や地理、歴史資源などを巡るツアーを、宮島パークボランティアの方々と試行した。



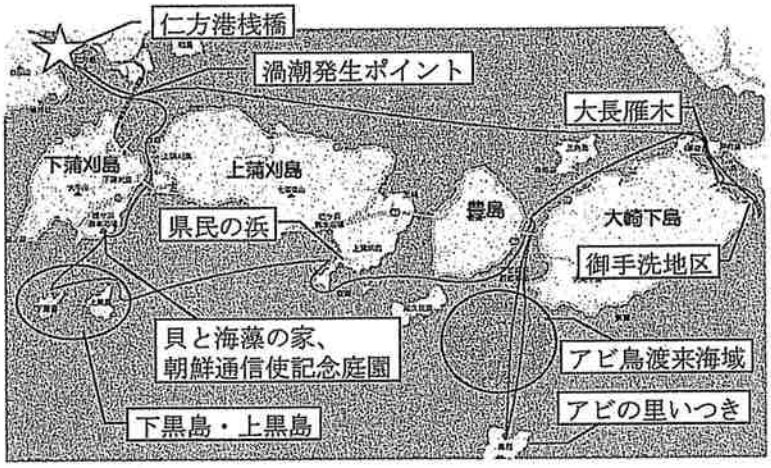
宮島・海からのエコツアー

2)安芸灘四島における海からのエコツアー

瀬戸内海の西中央に位置する安芸灘海域と多くの島々を所有している呉市は、瀬戸内海で最も長い海岸線をもつ市である。豊かな生態系と景観に恵まれた島々と海域はエコツーリズムを構築するうえで最適である。そこで、四つの島々が連なる「安芸灘四島」を対象に呉市の協力によりエコツアーを構築した。四島は下蒲刈、上蒲刈、豊島、大崎下島である。現在では四島には橋が架かり、船による交通は衰退し海上からの景観を見る機会が激減した。そこで、四島の生態系景観や海文化、島の産業、伝説や風土をコンテンツとして「エコツアーシナリオ」を作り、安芸灘四島を巡る「海からのエコツアー」を試行した。江戸時代の参勤交代で使われた海の道の文化や史跡と、広島県鳥「アビ」による伝説の「アビ漁」、そして「藻塩作り」の体験、沿岸域の付着生物調査、島の植生など、歴史と自然との調和を体験しエコツアーを満喫した。

3)スナメリ・エコツアーの構築

瀬戸内海の海洋哺乳類であるス

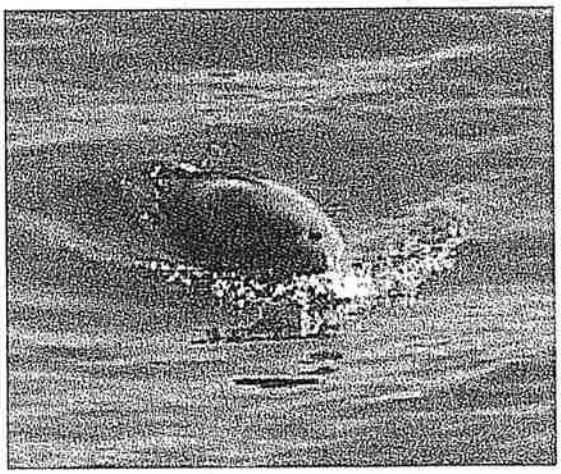


安芸灘四島・海からのエコツアー

ナメリの生息数が一九八〇年から激減した。スナメリはクジラ目ネズミイルカ科で、瀬戸内海の生態系全体のバロメータとして重要である。激減の背景には瀬戸内海の開発による人為的な要因があった。スナメリを将来的に保護し、増やしていくことが環境保全につながる。そこで、スナメリの存在を広域的に把握するため、瀬戸内海のなかで比較的スナメリの目撃情報が多いとされる八航路（粟島汽船・瀬戸内海汽船・中島汽船・防予汽船・柱島海運・牛島海運・周防灘フェリー・宇和島運輸）での目視調査を二〇〇八年から継続的に行っている。二〇〇八年から二〇一〇年までの各航路で収集した目撃情報を合計すると、三、〇五七頭となった。そこで、スナメリウォッチを主体とする「スナメリ・エコツアー」を、これまでの調査から愛媛県中島汽船の協力を得て、目撃頭数の多い一一月に行った。このツアーでは、子供連れの方の参加も多く、中島汽船カーフェリーの最上階に定員一杯の約五〇名の参加者が乗船した。その結果、五頭ものスナメリを観察でき、参加者は大変感動した。このエコツアーで得たアンケートからは、九七％の参加者が次回も絶対参加したいという意向を示し、エコツアーとして有効なコンテンツであることが証明された。

エコツーリズムの構築に必要な基盤整備

瀬戸内海のエコツーリズムを普及発展させるための前提として、従来型の日本観光の文化や価値観から、新しい欧米型の観光であるエコツーリズムの概念が日本人に受け入れられるかが課題である。日本でもエコツーリズム活動は始まったばかりで、運用経験と基盤整備は未熟な段階である。特に、瀬戸内海でのエコツアーの数は少なく、内容もエコツーリズムの概念からはほど遠い現状だ。瀬戸内海の国立公園を活用した「海と島」のエコツーリズムを充実させて国内のエコツーリストを育成し、外国からのエコツーリストも満足させる基盤整備を行っていく必要がある。



スナメリ・エコツアー

環境省は二三年度の新規政策として、「生物多様性の保全・活用による元気な地域づくり事業」を掲げた。それらは、「エコツーリズムを通じた地域活性化事業、生物多様性の保全と活用による国立公園活性化事業、エコツーリズム基盤施設整備事業」の三本の事業活動からなるエコツーリズムの振興・整備である。これらの政策を、瀬戸内海国立公園が立地している各地方自治体や、関係するエコネットワークの方々と一緒に協議会を構成し、事業展開することが必要である。

1）エコツーリズムを通じた地域活性化事業

この事業の最も大きな目的は、人材育成と雇用促進にある。具体

的には、①地域コーディネータ活用事業、②外国人旅行者のためのプログラム整備事業、③エコツーリズムガイド育成事業、の三項目から構成されている。

①地域コーディネータ活用事業

地域におけるエコツーリズムの開発や実施に係わる総合的なコーディネート業務を行うためのものであり、代表となる地域のコーディネータが指導・活動する仕組みである。具体的な役割として、「エコツアーシナリオ」づくり、自然環境資源や文化財の保護ルール設定、環境資源のモニタリングと評価、地域住民とのコミュニケーション、宿泊施設の整備、エコツアーのコース設定、地産地消のマーケット設置、など多くの業務が存在する。このように重大な任務を担う地域コーディネータを育成することが最大の課題である。

②外国人旅行者のためのプログラム整備事業

日本のエコツーリズムが、世界に通用するように、外国人旅行者に対応したエコツーリズムを構築することが必要である。また、日本のエコツーリスト人口はまだ少数で、エコツーリズムの質は欧米と比較してかなり低い。レベルアップして外国人も認めるエコツーリズムを創ることが必要である。瀬戸内海国立公園を代表する「宮島」は、外国人旅行者が多く、世界で最も人気が高いと聞く。しかし、世界文化遺産の厳島神社だけを観て帰る人が七五%と多く、宮島の豊かな自然や景観を知ることなく帰る。このため、外国人旅行者用の「宮島エコツアーモデル」プログラムを構築することが必要である。

③エコツーリズムガイド育成事業

エコツーリズムを実施し、ビジネス化するうえで最も重要な事が人材育成であり、そのための仕組みと設備が必要となる。重要な地域コーディネータの人材は、環境に対する専門的な知識と経験を必要とし、エコツアーオペレータの役割も兼務できる能力が必要である。また、エコツアーガイドは専門的な解説ができるインタープリターとしての技能を必要とする。人材育成ではそのための研修や実習の指導者と施設整備を確保することが必要である。

2)エコツーリズム基盤施設整備事業

エコツーリズムの実施を支えるために、基盤施設整備事業が必要である。先ずは、エコツーリストが長・短期間滞在できる宿泊施設が必要である。それらはエコツーリスト用の民宿（B&B：イギリス）、エコリゾート、ゲストハウス、ロッジ、コテージ、マリーナ、バンガローなどである。エコツーリズムインフラ整備として、環境保護のため保護地のボードウオーク、舗装された道、展望台、ルール標識（サイン）、生態系解説標識、ビジターセンター（エコツーリズムセンター）、ウオーキングセンター、エコミュージアム、トイレ、桟橋、投錨地、駐車場、レンタル自転車、エコマップ、エコガイドブック、地産地消販売センターなどの施設整備が必要である。海のエコツーリズムの実施には、ツアー専用の船や、島に上陸用の設備が必要である。

おわりに

瀬戸内海でのエコツーリズムは、これまで日本で先行している指定モデル一三地区と比べ、国立公園の海と島とを一体として「生態系景観」を活用した多様で個性的なエコツーリズムを構築できる。また、エコツーリズム商品として生物多様性や地域文化を実感できるアクティビティを構築していくことが、諸外国からの質の高いエコツーリストも満足させることができる。このために、日本では人材が希薄であるコーディネータやエコツアーガイドを早急に育成することが必要で、エコツーリズムに情熱がある若者や地域の人を養成して専門家として雇用できるように整備が必要である。また、エコツーリズムを発展させるためには基盤施設整備と地域の人々との連携を強化していくことが必要である。以上、瀬戸内海のエコツーリズムが新たな観光と地域振興に繋がることを期待したい。

上嶋　英機●うえしま　ひでき
一九四四年福井県敦賀市に生まれる。一九七二年　通商産業省工業技術院の国立研究所に入所（現在：産業技術総合研究所）。瀬戸内海の環境保全と修復の研究に従事。二〇〇五年より広島工業大にて現職。二〇一〇年「瀬戸内海エコツーリズム協議会」理事長に就任。瀬戸内海のエコツーリズムと環境保護の活動に従事。
現職：広島工業大学大学院工学系研究科環境学専攻教授。